



発行者: ユニセフ子どもネット事務局 財団法人 日本ユニセフ協会 広報室 〒108-8607 東京都港区高輪4-6-12 ユニセフハウス

ユニセフ TOPICS

アフリカ南部の国々に 食糧危機ますます深刻に

アフリカ南部の6カ国(ジンバブエ、マラウイ、ザンビア、モザンビーク、スワジランド)では、悪天候、干ばつ、政治や経済が安定しないこと、HIV/エイズの広まりなど、さまざまな原因がからまりあって、たいへんな食糧危機がおこっています。



ザンビアを訪れたロジャー・ムーアユニセフ親善大使 ©UNICEF/Sarah Epstein/2002

だけによる被害とはちがっています。昔は、種を植え、畑を耕し、働けるおとなが残っていました。今は、おとなの4人にひとりがHIVに感染しています。

夢を打ちくだかれた ジオナ



マラウイで無料の小学校制度がはじまったのは1994年。そのとき10歳だったジオナは、希望でいっぱいでした。「最後まで学校に通って、先生が医者になるわ」

なりました。彼女は7人きょうだいの2番目です。ジオナは丘の農園で働かせてもらっていましたが、今は農園に仕事はありません。

©UNICEF/HQ02-0258/Ami Vitale

パレスチナ自治区 子どもたちが学校に行けない

暴力の悪循環がつづいているイスラエルとパレスチナ自治区。10月、パレスチナ自治区のユニセフ事務所特別代表ビエール・ブパールさんは、イスラエルがパレスチナでおこなっている規制のために、子どもたちが学校に行けない状態にあるとつたえしました。

ままです。580校がイスラエル軍による外出禁止令や封鎖のために休校しています。

移動の規制がある地域では、学校に代わる教育システムがとられています。自宅や両親から勉強を教わったり、モスク(イスラム教寺院)や地下などに仮設の教室がつけられたりしています。



©UNICEF-OPT/2001/S.Sabella

予防接種のこれからについて

ユニセフはWHO(世界保健機関)などと、いっしょに世界の予防接種についてのくわしいレポートを発表しました。予防接種を広める努力が多くの地域で成功をおさめ、はしかや破傷風にかかる子どもの数は減り、ポリオはもうすぐ根絶できるといわれるまでになりました。

た6種類の病気(はしか、ポリオ、百日咳、破傷風、結核、ジフテリア)に対する予防接種に加えて、子どもたちを苦しめているその他の病気、たとえば、HIV/エイズやマラリアなどに対するワクチンの開発や、毎年何万人もの患者が出ているデング熱やコレラなどに対する予防接種も必要だと報告しています。



©UNICEF/HQ92-0483/ Jeremy Horner

*日本ユニセフ協会のホームページ(http://www.unicef.or.jp)では、予防接種を特集したサイトをオープンしています。



ユニセフTOPICS... 1
子どもを売らないで!...アグネス・チャンさんカンボジア訪問/カンボジアの子ども・若者も来日... 2-3
地図で見る世界の子どもたち 「安全な水を子どもたちに!」... 4-5
ソマリアって国、知ってた? ~子どもネットワーク記者 ユニセフスタッフにインタビュー~... 6-7
REPORT&INFORMATION 報告とお知らせ... 8

子どもを 売らないで!

日本ユニセフ協会大使
アグネス・チャンさん
カンボジアを訪問

人身売買の
防止にとりくむ
カンボジアの
子ども・若者も
来日

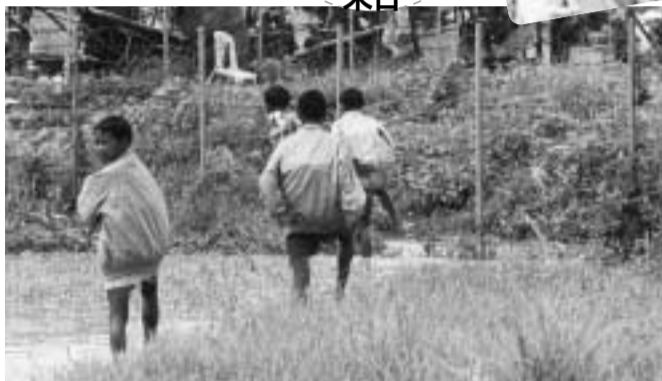
日本ユニセフ協会大使のアグネス・チャンさんが、8月19日～24日まで、カンボジアを訪れました。アグネスさんは、国境をこえて行きかう子どもたちのようすを見たり、人身売買の犠牲になった子どもたちが暮らす施設を訪問したりしました。また、アグネスさんと一しょに来日した2人のカンボジアの子ども・若者活動家が、「ユニセフ子どもセミナー2002」を開きました。

Report from CAMBODIA アグネス・チャンさんからの報告



最初に向かったのは、カンボジアとタイの国境にあるポイベット村でした。カンボジアを訪れるのはこれで3回目です。最初は1988年、ちょうどベトナム軍がカンボジアから撤退した後の年でした。1988年、人びとは無表情で絶望の中にいるようでした。多くの人が虐殺されたポル・ポト政権時代の悪夢から立ち直れていないようでした。今回、訪れたポイベット村では、物が増え、人びとの表情は明るくなっていました。でも、すっかり平和がもどったというわけではありません。たくさんの方が貧困で苦しんでいます。カンボジアとタイとの間にある浅い川。その川を渡るとポイベット村に入ります。子どもたちが、「お金をください」とよってきます。多くの人がタイへ向かって国境をこえようとしていました。

彼らは、朝、国境を渡り、夕方、帰ってきます。国境を渡るときは、緑色の許可証が必要です。これは10パーツ（およそ30円）で買うことができます。子どもにその紙はいりません。だから子どもがさらわれても、よくわかりません。子どもの手をとって、「自分の子です」と言えば国境を渡れてしまうのです。カンボジアで一番多いのは子どもです。その子どもが売られます。安い労働力としてねられます。言いなりになりやすいから、純粋だから、一生けんめい働くから、親孝行だから...、子どもたちはそんな理由でひどい目にあっているのです。



背中に荷物をかかして国境を越える子どもたち

Report 1 傘さしをする ワニーちゃん

ポイベット村で、ワニーちゃんという女の子に出会いました。ワニーちゃんは13歳で、身長は140cmほど。日本の13歳の子とくらべて小さいと思います。ポイベットには大きなカジノが建設されています。タイではカジノは禁止されているので、タイ人や外国人がこのカジノへやってきます。そのお客さんを自当てに、子どもたちが、カジノのまわりで仕事をしています。ワニーちゃんの仕事は「傘さし」です。カジノから出てくる人に雨や日差しをよける傘をさしかけて、運がよければ5パーツほどもらいます。1日におよそ90円をかせくそうです。

ワニーちゃんの家によせてもらうことにしました。バイクが引っぱるリヤカーに乗って移動します。なんにもない所にボツボツとあるうちのひとつ、今にもく



ワニーちゃんの家へ向かう

ずれそう小さな家でした。そこにワニーちゃん、両親、兄弟、妹と暮らしています。電灯もついていません。お母さんは、妹の世話にばかりきり、ワニーちゃんが2人の弟を食べさせます。朝6時に起きて12時間働いて、食事はご飯になすの煮物だけ。かせいたお金は家族にわたします。お父さんは帰ってきていないし、お兄ちゃんはタイに行っただけです。それでも、家族があって帰る家がある。ワニーちゃんはまだよいほうだったと後から分かってきました。



Report 3 私たちはカンボジア第2の都市バタンバン 母親に売られた サリーちゃん

私たちはカンボジア第2の都市バタンバンに向かい、人身売買の犠牲になった子どもたちが保護されている施設「ホームランド」を訪れました。そこで、サリーちゃんという女の子と、アドリーくんという男の子に出会いました。サリーちゃんはお母さんに売られ、タイに行きました。花やキャンディ売りをさせられていたそうです。アドリーくんは両親をなくし、あずけられたおじさんの子どもたちと一しょにタイに働きに行き、警察につかまり、送りかえされました。

サリーちゃんは次の日、家に帰ることになっていて、私はついていくことにしました。でも、サリーちゃんは途中で具合が悪くなり、車の中で何度も吐きました。とうとう、施設の先生が「今日はあきらめよう」と言いました。

私はひとりだけでサリーちゃんのお母さんを訪ねました。ほんの少しの菓物売り、たおれそうな家に2人の子どもと住んでいました。2人のお兄さんは親せきにあずけたと言います。おどろいたことに、サリーちゃんは2回売られていました。1度家にもどってきたのに、また知り合いの女の人からお金を受け取ってあずけてしまったというのです。サリーちゃんの具合が悪くなった理由がわかりました。お母さんに会いたいという気持ちは大きいのに、帰ったらまた売られてしまうかもしれないと心配だったのでした。

子どもを売ってしまうお母さん、ものすごくつらいと思います。私はサリーがどんな目にあっただか、今きつとどんな気持ちか、話しました。「子どもが売られてどんな目にあうかわからなかった。でも分かったから、もう2度と売ることはない」とお母さんは言いました。サリーちゃんを売ったのば下の子が病気になるからさうです。では「また下の子が病気になるらどうするの?」と聞いてみました。

お母さんは泣きながら「サリーが自分で行くと言ったんだよ」と言いました。私は、それでも、「絶対に売ってはいけない」と話しました。



サリーちゃんのお母さんと話す

でも私の会った子は、帰ってこられた子たちでした。子どもが行ったきり帰ってこない、どこへ行ってしまったか分からない、という話もよく聞きました。今日もたくさんのお母さんが家に帰らず、夢も希望も、場合によっては命さえもうばわれていきます。お金のあふる人が何でも買える、子どもの命も、夢も希望も好きなようにできるなんて、ゆるせないことです。私たちもがんばって、必死に生きている子どもたちを応援していきたいと思えます。



ウェットちゃん

「グットー」という団体を訪ね だまされて連れ去られた ウェットちゃん

そこでウェットちゃんに出会いました。彼女は人身売買の犠牲になった子どもでした。

ある日、ウェットちゃんは、村の子どもたちと一しょに、村ではめずらしいビデオを見ていたそうです。普通の家にテレビなどないので、子どもたちが集まってきました。そこでウェットちゃんは、男の人から飲み物をわたされ、それを飲んだら気が失ってしまいました。目がさめるとき、ウェットちゃんはタイにいました。バンコクでほかの子どもたちと、花売りやキャンディ売りをさせられました。売上げが300パーツ（およそ900円）になるまでキャンディを売らなくてはならず、売れなかつたらご飯はもらえません。600パーツ以上売れるとわずかなおこづかいももらえたそうです。私はウェットちゃんに聞きました。「いままで見ると一番悪い夢は何?」彼女は「電線のむちで打たれること」と答えました。それは夢ではなく現実でした。300パーツ売れないうちで、むちで全身を打たれたそうです。「楽しい夢は?」と聞きました。彼女は、「一度も見たことがない」と答えました。彼女は今16歳くらい、両親はなくなっており、お母さんはエイズだったそうです。

私たちは半日の学校を開いている施設にも行きました。なぜ半日かというと、働いている子どもたちが丸一日学校に行くことはできないからです。しかも給食つきという条件で親を説得し、子どもを通わせています。ここには人身売買の経験を持つ子どもがたくさんいました。男の子は物売りとしてだけでなく、農場の労働力になります。年ごろの女の子は売春をさせられたりします。もどってくるときは、タイで不法滞在者として警察につかまって強制的に送りかえされてくるのです。



学校に給食があると通える子どもたちがいる

ユニセフ子どもセミナー2002

アグネスさんの報告に続いて開かれた「ユニセフ子どもセミナー2002」では、はじめに、以前からこの問題について積極的に活動している国会議員の谷垣禎一さんがスペシャルゲストとして、8月にミャンマーとカンボジアを視察されたお話をされました。谷垣さんは、ごみ山で暮らしたり、国境をこえて人身売買されたりする子どもたちのようすを報告し、現地では警察官などの給料が少なく、わいの受け取りが起りやすいなど、子ども搾取や虐待の取りしめがすまない理由を説明してくださいました。



続いてカンボジアの2人がワークショップをはじめました。小柄な体からは想像のつかない大きなエネルギーに、参加者もどんどん引き込まれていったようです。



ソクンティアさん(左):カンボジアのNGO「子どもの権利財団」の創立メンバー。21歳。子どもの人身売買を防ぐために子どもによる監視システムを計画中。昨年12月に横浜で開かれた「第2回子どもの商業的性的搾取に反対する世界会議」や今年5月の「国連子ども特別総会」に参加した。

ソーバナレツさん(右):子どもの権利を広める青少年団体の活動に参加する活動家。17歳。貧しい家庭の出身で、13歳で学校をやめ、お母さんと市場で野菜を売る生活。毎朝4時に起きて野菜を仕入れ、お昼まで野菜を売る。一日の売上はカンボジアのお金で3000~4000リエル(およそ100~150円)。午後、縫製学校に通っている。

VIDEO

ビデオ

最初に「The Victim (被害者)」というビデオを見ました。これは、実際にあった話をもとにユニセフがNGOと協力して作った現地で使われている啓発用のビデオです。

2人の警察官が行方不明になった少女スベイブルーの捜索をはじめます。捜索をすすめる中で、スベイブルーはあるカラオケバー(買春宿)で働かされていることがわかった。彼女はお手伝いとして働けると言われたのに、実際は、無理やり薬を飲まされ、カラオケバーに売られたのだった。翌日、救出に出た警察官が彼女を見つけたときには、彼女は自殺していた。

ビデオを見て...

- Q日本でも似たようなことがありますか?
 A女性か帰りに道にレイプされたり、女子高生が自らの性をお金などと引きかえに売ったりすることはあります
- Qスベイブルーはなぜ自殺してしまったのでしょうか?
 A昔の自分にもどれないと感じたから? はずかしくて家族に自分の姿を見せたくないと思ったのかも。

DISCUSSION

話し合い

年齢別に3つのグループに分かれて、話し合いが行われました。各グループからは、「人身売買」は、「人を人として考えないこと」、「人をモノとして売ること」、「人の命をもて遊ぶこと」、「子どもの性的搾取」については、「子どもの体をおとなの思い通りにすること」などの意見が出ました。そして、「私たちにできること」については、次のような意見が出ました。

- ・おとなだけでなく子どもにも買春問題について情報を出す
- ・教育(性教育)を充実させる
- ・貧しさから抜け出せるように人ひとがもっと働ける場をつくる支援をする
- ・相手の立場を考えられるように、思いやりを持てるおとなになるように教育する
- ・学校の友達にこの問題を伝える
- ・政府に立法を働きかけたり、おとなに考えを伝えたりする



VOICES

アンケートから

今日見たことや、聞いたことを忘れずに活動をひろげていきたい。自分の友達やほかの人にも今日のことを伝えていきたい。私達と同じ年の子どもたちが性的搾取を受けていることにショックを受けました。日本という豊かな国が、このことにもっと関心を持つべきだと思います。おとなの理解と教育がとても重要だと感じました。

子どものパワーはすごい! みんなで子どもの商業的性的搾取をなくすために動けたらって思う。人身売買の問題はすごく大きくてむずかしくて、目をそむけなくなる時があります。そんな時、力になることは、その問題にとりくむ仲間がいるということです。カンボジアの2人に力をもらいました。一緒にがんばろう!



参加した子どもネットワークから

世界の子どもたちがモノとして思われ、またモノとして使われていることが、よくわかりました。なぜ子どもがおとなの道具のように使われないといけないのか、とても不思議に思いました。しかし、話を聞いていくと、そのうちのひとつの理由がお金がないから、というものでした。ぼくは、これを聞いた時にとてもがっかりしました。お金がないだけで子どもを売るのはひどいと思いました。ぼく達にできることは、同じあやまちを二度とおこさないようにすることだと、この報告会で思いました。 **丸竹 拓也 12歳**

8月26日午前中はアグネスさんの帰国報告会に参加して、午後は子どもセミナーに参加しました。子どもセミナーはソクンティアさんとソーバナレツさんがとてもわかりやすく説明してくれたので、カンボジアのことがよくわかりました。カンボジアが貧しくて、子どもが自分も働かなくちゃと思って、がんばっているのに、子どもが売っているものがなかなか売れなかったりすると、すぐにムチで叩いたりするのは、本当にいけないと思います。花やあめを売るのではなく、買春される子がたくさんいることもわかりました。本当にかわいそうに思いました。仕事がいやで逃げ出そうにも、さらにひどい暴力を受けて逃げ出せない。本当に子どもを物扱いにしていると思いました。貧しいから少しでも働きたいという子どもの気持ちを、おとなの都合のよいことだけに使うのは、許されないことだと思います。もし、家に帰れたとしても、また売られるかもしれない、まわりの人から差別を受けるかもしれない。こうして子ども達は生きていく道をなくしてしまう。こんな環境で生きている子ども達を早く救ってあげたい。 **渡辺 濯 13歳**

カンボジアでは現在多くの子どもが売り買いされているそうです。1970年ごろから20年以上におよぶカンボジアの内戦が始まり、人びとは貧困になやまされました。内戦が終わった後も、貧困は続き、生きるために多くの女性が売春にたずさわるようになりました。国が少しずつ豊かになると、外国から安いお金で女性を買いにくる観光客が増えたそうです。買春されている人の3分の1は18歳未満の子どもです。また、多くの子どもが労働力として海外に売られています。ソクンティアさんの話によるとターゲットは13~14歳位の女の子なのだとか...。「海外の工場で働かないか?」などと密売人にだまされて、性産業で働かされるそうです。

また、HIV/エイズが大きな問題となっています。カンボジアの性産業で働いている人の42.6%はHIV(エイズを引き起こすウイルス)に感染しているそうです。カンボジアではまだ、法律や社会福祉制度が不十分で、問題の解決はとてもむずかしいことだそうです。

お話を聞いての感想

人身売買がこんなに世界でひんぱんに起こっているなんて想像もしていませんでした。新聞で、「臓器売買のために子どもが売られた」というニュースを見たことがありますが、本当にまねな問題だと思っていました。それだけでなく性的搾取を目的とした人身売買が起こっているということを知って大きな衝撃を受けました。



小さな子どもならエイズにかかっていないからといって、ターゲットにされるのは信じられないことです。もし、自分が被害を受けていたら本当にいやです。私のいる環境から人身売買が現実起こっていることを受け止めることはむずかしいことです。本当に信じられないし信じたくないです。こういう問題が早く解決されることを祈るしかできません。また、解決のために私にもできることを考えていきたいです。 **小張 真理子 17歳**

写真: ©日本ユニセフ協会/Nozawa

地図で見る世界の子どもたちのようす

安全な飲み水を手に入

安全な水を子どもたちに!

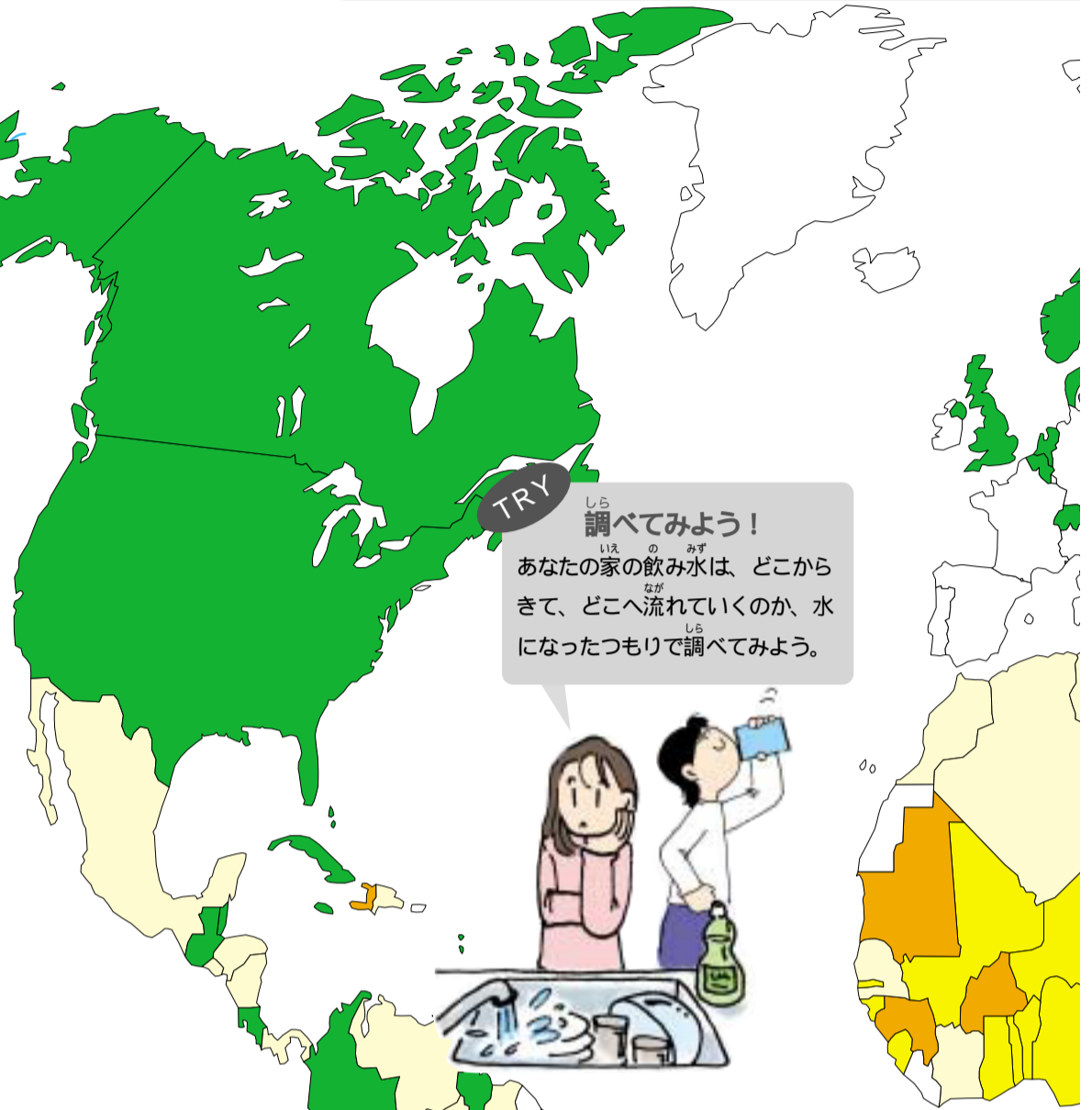
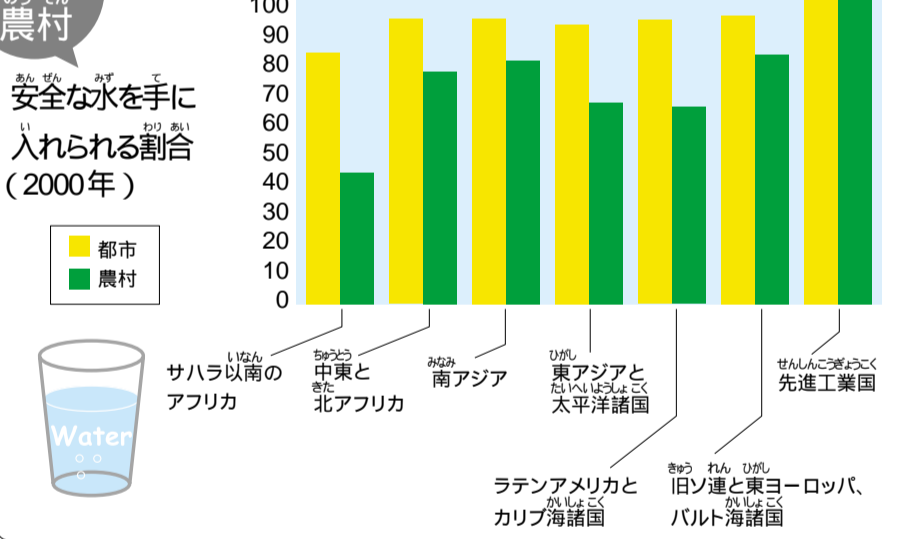
子どもが守られる世界は環境も守られる世界



2002年8月26日から9月4日まで、南アフリカ共和国のヨハネスブルグで、国連の「持続可能な開発に関する世界サミット」(ヨハネスブルグサミット)が開かれました。10年前、ブラジルのリオデジャネイロで開かれた「地球サミット」で、各国は、環境を守り、エネルギーや資源を保全しながら続けられる開発(持続可能な開発)のために行動することを約束しました。しかし、その後、世界は、環境を守り資源を保全できるようになったのでしょうか?

今、地球の人口は60億人をこえました。過去50年の間に2.4倍に増え、今も増えつづけています。世界の5人にひとり、1日1米ドル(およそ120円)にも満たない収入しかなく、とても貧しい生活を強いられています。安全な飲み水を得られない人びとは、およそ11億人に達しています。

都市と農村



TRY しら調べてみよう!
あなたの家の飲み水は、どこからきて、どこへ流れていくのか、水になったつもりで調べてみよう。



安全な飲み水を手に入れられる人の割合が...

- 0% ~ 25% の国
- 26% ~ 50% の国
- 51% ~ 75% の国
- 76% ~ 90% の国
- 91% ~ 100% の国
- データなし

STORY 水が来たら、学校に行けた!



ジンバブエのピンガ地区は貧しい地域です。ここで暮らす11歳のピカイは、お母さんが病気にた学校をやめるほかにありません。でも病気がちで、シュピカイはの妹をどうにか食べさせて、せればならなかったのです。

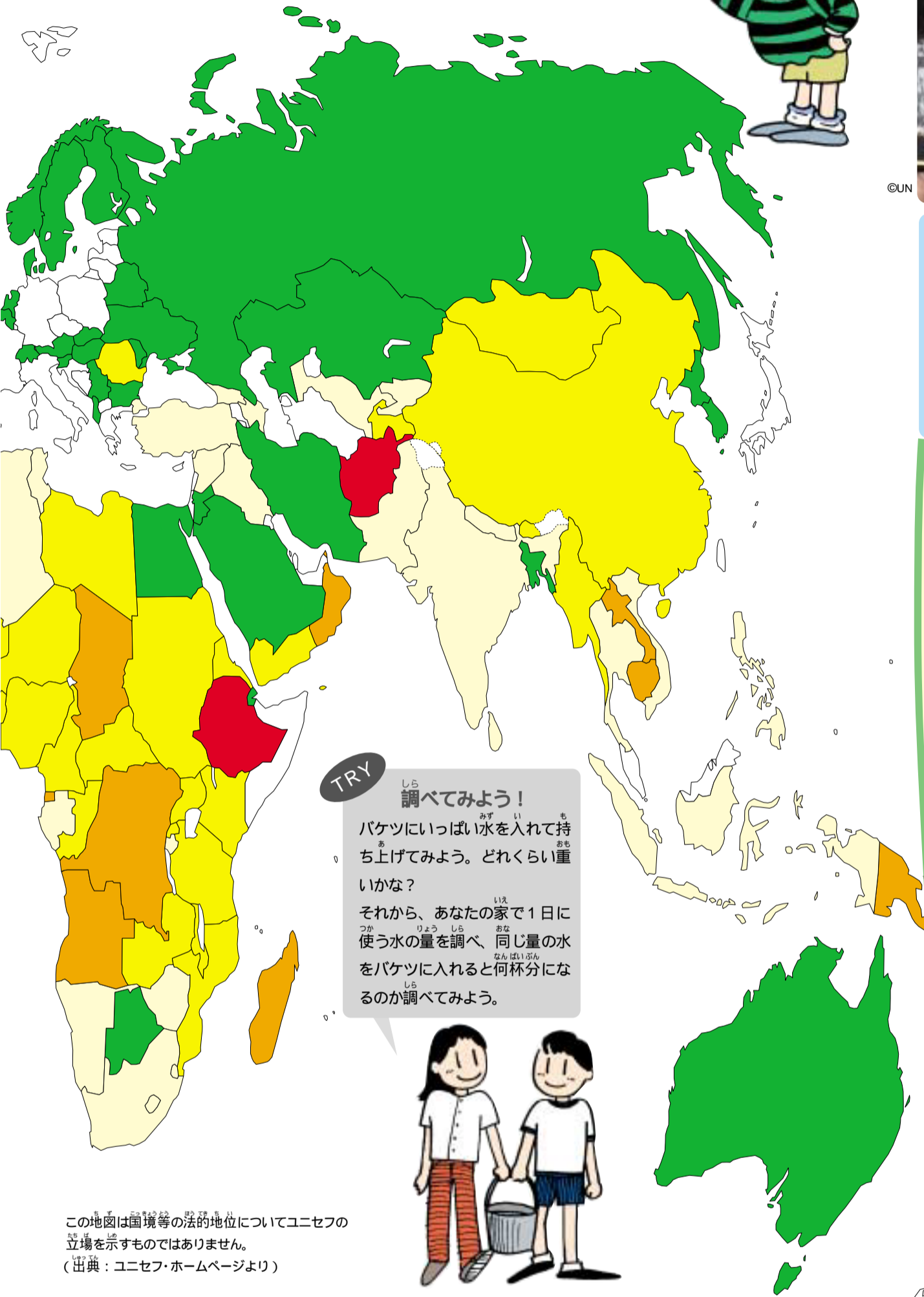
家にはトイレがなく、お母さんをくり返していました。シュピカイも注意深く穴をほって、そやましたが、家族はみんな病気がありました。

ユニセフのキャロル・ベラミー事務局長は、サミットで次のように話しました。

「本当に持続可能な開発を達成するためには、子どもにふさわしい世界をつくらなければなりません。安全な水やきれいなトイレを整えるといった簡単なことが、子どもの命を守るだけでなく、多くの子どもたちを学校に通わせることにもつながります。そして、しっかりと教育を受けた子どもたちは一世代でも大きな変化をもたらすことができるのです。」

サミットは、全世界の国々に協力して、環境を守り、貧困をなくし、持続可能な開発をすすめることを約束した実行計画書と宣言文を採択して閉会しました。これから、それが実行にうつされるように、みんなではたらきかけていくことが求められています。

い ひと わりあい 入れられる人の割合



この地図は国境等の法的地位についてユニセフの立場を示すものではありません。
(出典：ユニセフ・ホームページより)

は貧しい人が多い
 1歳の女の子シュ
 ンにたおれたとき
 んでした。お父さん
 は、1歳と3歳
 二、世話をしなけ
 り
 母さんはひどい
 シュピカイは、い
 それをうめてい
 うき気がうつる危険

それに、井戸もないので、シュピカイは水
 を入れると20kgもの重さになるパケツを持
 って、3kmもはなれた水場まで1日に何度
 も往復しなければなりません。水場
 といっても、ただ穴をほって水がわき出して
 いるだけのところで、おおいもされていま
 せん。重いパケツを頭にのせて、家に帰るの
 に40分はかかります。
 この問題をどうしたらいいのから？と聞
 かれたときシュピカイはすぐさ答えました。
 「水よ！水。水さえ近くにあれば、問題の半
 分は解決するの。それに、もしトイレがあれ

ば、お母さんは楽になると思うわ。両親や
 妹の世話をするのだから、とても簡単にな
 るし」
 ユニセフが支援するプログラムがこの地区
 ではじまり、とうとう、シュピカイの家にも
 井戸とトイレができました。お父さんはれん
 がをつみ、トイレ用の穴をほりました。建設
 してくれた人たちには、にわとりややぎでお
 礼を払いました。
 このできごとの後、シュピカイの毎日の
 仕事はずっと楽になり、数ヶ月のうちに、も
 う一度学校にもどることができました。



ヨハネスブルグサミットでの 子どもたちのスピーチ

ヨハネスブルグサミットでは、4人の子ども代表が
 スピーチをおこない、子どもたちの声を伝えました。
 みなさんなら、どんなことをうたえたいですか？

私たちは、10年前のリオデジャネイロ会議のときはま
 だ赤ちゃんでした。でも、ここでうたえたいことは、
 そのときに話されたことばかりです。世界の子もた
 ちはがっかりしています。なぜなら、多くのおとなが
 お金や富にしか興味がなく、私たちの未来に深刻な影
 響を与える問題のことを考えてくれないからです。
 あなたの子もたちのことを考えてください。...どん
 な世界を彼らに望みますか？
 私たちの声を聞いてください。そして、私たちすべて
 が幸せに生きられるような選択をしてください。

世界中の政府は
 開発途上国のすべての人が安全な水を手に入れられ
 るようにしてください
 (二酸化炭素の排出を制限する) 京都議定書に署名
 してください。私たちは、真夏に雪がふるんじゃない
 かなんて心配するのはもうごめんです
 一家族あたりの車の数を制限してください
 すべての子どもたちが、無料で保健サービスを受けら
 れるようにしてください
 植林することなく木を切るのはやめてください
 貧しい人や子どもたちを支援するためにもっとお金を
 使ってください

世界中の人びとは
 歩いたり、自転車を使ったり、車の相乗りをしたり、
 (車を使わない)交通手段をもっと使いましょう
 ごみを減らし、もう一度使い、リサイクルを進めま
 しょう
 多くの政府が、環境や人びとにあまり配慮しない人
 たちによって簡単に動かされてしまうことを心配して
 います。ほかの惑星を代わりに買うなんてことはでき
 ないのです。罪を犯した人は刑務所に送られます。な
 ぜ、環境や子どもを傷つける国ぐにを罰することが
 そんなにむずかしいのでしょうか？

鏡をのぞいて、こう言えますか？「子どもには未来が
 ある、安全な水を手に入れられる、貧困や汚染された
 環境で生きなくてもよい。なぜなら私たちが行動する
 のだから」と。そんなにたくさんのことをお願いして
 いるとは思いません。いいスピーチだったね、とほめ
 られるより、みなさんが行動してくれることを願います。

(一部抜粋翻訳)

INTERVIEW



Profile 1992年に国連ボランティアとしてボスニアの人道援助活動に、1994年に南アフリカの国連選挙・平和運動監視活動に参加。1995年、ユニセフ・ミャンマー事務所へ赴任。ユニセフ・イラク事務所などでの勤務の後、2000年9月からユニセフ・ソマリア・ボサソ事務所長。

なかい ひろまさ
中井裕真さん

ソマリアって国、知ってた？



「ソマリア」と聞いて、どこの国がすぐにわかりますか？ アフリカの東、アフリカ大陸の角のようになっていっているところにあるソマリアは、長引く内戦と干ばつや洪水などの自然災害のために、人びとの生活はずたずたにされてきました。でも、ソマリアのことを知っている人は少なく、国際社会もあまり関心を持っているとはいえません。そのソマリアの話をしてくれたのは、ソマリア・ボサソの町にあるユニセフ事務所 長の中井裕真さん。中井さんによると、ソマリアの状況は「国全体が難民キャンプ」のような感じなのだそう。

なぜ戦争が続いているの？

Q ソマリアの戦争など、歴史的なことに教えてください

A ソマリアで起こっている内戦は、民族の紛争ではありません。ソマリアは単一民族の国です。



ソマリアは1887年にイギリス領とイタリア領に分かれてしまいました。1960年6月にイギリス領だったソマリランドが独立し、その2日後にイタリア領だったところが独立しました。その後、2つの国がひとつの国として独立し、政府ができました。しかし、ソマリア全体をまとめるのには苦労しました。なぜなら、ソマリアには遊牧民族が多く、その上、先祖代々続く氏族という家族の大きなかたまりがいくつもあって、氏族同士の争いが昔からあったからです。

そこに、アメリカと旧ソビエト連邦の間の東西冷戦が大きな影響を与えました。ソマリアが独立した後、政権についた大統領はソビエトの支援を受けて、共産主義の国づくりをめざしました。その後、ソマリアのとなりの国エチオピアで、軍が政権をうばうクーデターが起き、とつぜん共産主義の政権ができました。それを見たソビエトはエチオピアへの支援に力を入れるようになります。そうすると、今度は共産主義をきらうアメリカが政治や軍事の面からソマリアに力を入れるようになりました。こうして、ソマリア国内には、アメリカとソビエトからきた武器や弾薬がたまっていったのです。

ソマリアの政府は、政府に反対する勢力をおさえきれず、国全体を治めきれなくなってしまいました。政府がなくなってしまった後は、さまざまな勢力が武器を略奪して争いを始め、それ以来、いまだに争いが続いています。

Q 百年も前の植民地主義やその後のアメリカやソビエトが今のソマリアをつくっているということですか？

A アフリカの地図を見ると、国境も不自然にまっすぐです。植民地の歴史のためです。今も、アフリカの多くの国は旧宗主国（昔支配していた国）の欧米の国に経済などで深いつながりがあり、そのつながりなしでは生きられないような構造になっていますね。

人びとの暮らしとユニセフの支援

Q ソマリアではどのような農業がおこなわれているのですか？

A ソマリアの気候は北部と南部で大きく違います。北部には遊牧民族が多く住んでいます。南部には大きな川が2本流れていて、その川にはさまれた肥沃な土地では、バナナやソルダム(穀物の一種)などが育てられています。昔はお米もとれました。メイズ(とうもろこし)が食糧支援で届けられたりしますが、ソマリアの人はあまり好きではありません。遊牧民でも半牧半農という人もいますし、場所によっていろいろ暮らし方をしています。



Q 農業に関する技術援助などはありますか？

A 技術協力などは、国同士で契約がかわされて、それにもとづいておこなわれます。ソマリアの場合、国全体を治める政府がないから、国と国の間での技術協力はなです。今、国連に籍のあるソマリア政府は首都モガディシュの一部しか治められていません。だから、支援をしているのはユニセフなどの国連機関やNGOだけです。

Q ソマリアの子どもたちが笑顔になる時はどんな時ですか？

A ソマリアの第一印象は「子どもたちの笑顔が少ない」でした。でも、大変な中でも、それなりに普通の喜怒哀楽がある生活が見えてきました。小学校で勉強している子どもたちの目はとても生き生きしていますし、新しい教科書を持っていったりすると、とても喜んでくれますよ。

Q ソマリアの子どもたちは日本のことを知っていますか？

A 知っているつもりなのではないかな。子どもたちとサッカーをやったときには「ナカタ」とか「ナカムラ」なんてよばれましたよ。

Q ユニセフの支援はソマリアの人が求めているものと合っていますか？

A ソマリアの子どもたちが置かれている状況は、世界で1、2を争うくらい悪いです。4人にひとりはいは5歳になる前に亡くなるし、8人にひとりくらいしか学校に行っていない。そんな中で私たちがやらなければならぬことは、まず、子どもの死亡率を下げることです。

ソマリアで、はしかの予防接種率はわずか16%です。内戦で入れない地域があったり、資金が足りなかったりという理由もありますが、予防接種の大切さを親が理解していないことも理由です。暑いところで予防接種をすると子どもが病気になる、そんなまじがったうわさが広がって、予防接種に行っても拒否されてしまうこともあります。私たちがしたい支援と、彼らがしてほしいことがずれている例です。それでも、予防接種は必要だとうたえるわけですけれど。現地の希望と合っている例は教育です。教育の大切さを知っている親たちがなげなしのお金を出し合って、小学校を

つくり、先生をよんで来て、学校を開いています。そんな親に「学校をつくったので、教材や備品を支援してくれないか？」という話が出て支援がはじまる場合があります。そういう場合、ユニセフの支援と現地の要望は合っていますよね。

Q 戦争の中で生きている子どもたち、心の負担が大きいと思うのですが、どのようにサポートしているのですか？

A ユニセフは心に傷を負った子どもたちへのサポートをしていて、それなり経験もつんでいます。しかし、残念ながらソマリアではまだそのような支援活動はできていません。



たとえば、コソボの難民キャンプの場合、対象となる子どもがかたまっていて、集中的に支援ができますが、ソマリアは日本の約1.8倍の面積に日本の人口の20分の1(600~700万人)の人が住み、子どもたちも散らばっています。

内戦が続く、子どもたちがどんどん亡くなっているような地域では、薬や食糧などの支援が先、教育は後、と思われがちです。でも、今、私たちはこういふところだからこそ教育が必要だと主張して、小学校教育に力を入れています。教育は発展性があります。学校で学ぶことが生きのびるために必要な知識を得ることにつながったり、小学校が「普通の」生活を子どもたちに提供する場になったりします。

それから、まだ小さい規模ですが、元子どもの兵士の社会復帰のための支援を始めています。首都モガディシュで、120人受け入れ予定のところに600~700人の応募がありました。そこでは職業訓練などがおこなわれています。

女の子は差別されている？

Q 男の子より女の子の就学率が低いのは、「女の子に教育はほだ」という考え方の人が多いということですか？

A そういふ部分もくはないと思います。ただ、男の子も女の子も小学校に通っている子どもは圧倒的に少ないのです。男の子であれ女の子であれ、小学校に行っても意味がなく、家畜のらくだを追わせたり、漁の手伝いをさせたり、家の手伝いや弟や妹の世話をさせたりする方が多く考えられているようです。高学年にあがるほど、女の子の退学率が高くなります。それには、学校が女の子の通える環境になっていないという理由もあります。ソマリアでは、女の子のトイレは入っていく姿が見えないように壁をつくっておかないといけません。教室も男の子と女の子がべつべつのことが多いです。そのようなトイレや教室がある小学校が少ないのです。



Q 女性は、やっぱり差別されているのですか？

A それは見方によると思います。水くみや家事、子どもの世話など重労働を担っているのは確かに女性です。でも、日本や欧米の女性に対する考え方をそのまま持ちこんでも、すぐに根づく



©UNICEF/Giacomo Proenzi



©UNICEF/HQ00-04781/Chalasan

は思えません。たとえば、安全な水が手に入る水場をつくるとし
ましよう。その管理委員会を住民でつくってもらい、そこに女性
を必ず入れてもらおうとしてもあまり意味はありません。なぜなら、
そうした場で女性が発言する習慣はないのです。

聞いた話ですが、大切なことを決める長老会議に出てく
る男性は、家庭で妻に「こんなことを話してきなさい」と言
われてきているそうです。ユニセフは、大切なことを決める
ときには女性の意見が反映されるように、と考えていますが、
(委員会や会議に女性が出ていなくても) そういう仕組みがあ
るにはあるのだよと教えられました。

それから、教科書に女の子が会議の議長をやっている絵を
入れるなどの試みもはじまっています。そんな教科書を見て、
だんだんみんなの意識が変わっていく効果を期待しています。

中井さんから見た日本、国際協力



も、今は日本人と見られることがうれしい、日本人であることに
誇りを感じています。というのも、世界のどこに行っても、日本
に対して敬意を持たれていると感じるからなんです。有名な
のは電気製品や車ですが、よく聞くと、そういうものを生み出し
た日本人や日本の社会に対する尊敬があることがわかんんです。

Q 中井さんから見た日本とソマ
リアについて教えてください

A 日本はいい国ですよ。でも、実
は、こういう仕事を始めた理由のひ
とつは日本を出たかったからなんです。
外国に出ても最初は日本人スタッ
フとして見られるのがいやでした。で

ソマリアについては...、ソマリアに限りませんが「世界は
不公平だな」とは思いますね。夜の地球を撮影した衛星写真
を見たことがありますか？ 日本やアメリカは電気でピカピカ
光っているのに、ソマリアも、私が働いたことのあるマン
マーもイラクも真っ暗ですもんね。

Q 最近、国際協力が何かきれ
いごとのように言われているの
ですが、中井さんは国際協力をど
う考えますか？

A 私、かっこいいかな、とあこが
れて入った世界ですが、実際はきれ
いごとではすまないこともたくさんありま
す。大学で先生が福祉について言ったことですが、福祉には「熱
き心と冷たい頭」が必要だ、理想は大事だが、理想を具体的
なサービスに置きかえていくときに、現実を見ずしてサービスを
くりあげられるプロフェッショナルになってほしい、と。これは国
際協力の仕事にも当てはまると思います。



Q 現場にいて、実際に人が死んでいたりするのを見て、
中井さんは人を助けることや命をどのように思いますか？

A 人が目の前で亡くなるのはつらいです。でも、とらわれすぎ
ては先へ進めなくなります。ソマリアでは毎年コレラが流行し、
今年の4月にも300人くらいが私の担当地域で亡くなりました。
病院に行くこととひどい状況で、言葉もなかったのですが、そこで止
まってしまうわけにはいきません。こういう時こそ「熱き心と冷た
き頭」です。現状を受け止めて、「じゃあどうする」と解決の道
を探すんです。それで給料をもらっているわけですし、この給料
はみんながユニセフに募金してくださった中から出ていることも忘
れてはいけないことです。

それから、あまり「助ける」とは考えません。募金をして
くださるみんなと現地の「橋渡し」をしている感じがします。
ユニセフは「方法を提供」します。魚を釣ってあげるんじゃ
なくて、釣り方を教える、といったふうに。現地の人々は自分
達で暮らして合うように工夫します。ときには、私たちが思
いもつかないようなもっとよい方法を生み出していることもあ
ります。私たちはそれを教わって、別の村
でそれを広めたりもします。結果的に「助
けている」部分もあるかもしれませんが、
そう意識したことはないです。



メッセージ

Q 日本の子どもたちに何を望みますか？

A 日本はもうダメなんじゃないか、なんて言われていますが、半
年くらい日本を留守にして帰ってくると、どんどん新しいものが
出て変わっている。世界的に見たら、日本みたいな国は限られて
います。日本の支援やパートナーシップを求めている国にこたえら
れるだけの体力は持っていないといけないと思います。それだけ
の期待があるということは自覚してほしいと思います。

Q 開発途上国での支援活動をめざしている人に
アドバイスを

A よく考えたほうがいいと思いますよ。日本で生活していれば
当たり前前の方が開発途上国では当たり前ではありません。この
ような仕事にすべての人が向いているわけではないし、また、国連に入り
たい人はたくさんいるわけですが、「国連に入ることを目的にしない
でほしい」と思います。国連とは大きな器であってその
中にいろいろな活動分野があります。まず自分
がどんな分野で何がしたいのかをはっきりさせた後
で、それを実現する手段として国連機関やNGOをめざしてくだ
さい。



Q 高校で栄養の勉強をしているので、将来は理系の大
学に行きたいのですが、それでもユニセフで働けますか？

A もちろん。栄養不良が深刻な国はたくさんあり、栄養はユ
ニセフの活動でも重要な分野です。理系の専門性が求められる
活動分野はたくさんありますよ。



©UNICEF/HQ00-00500/Chalasan

インタビューを終えて...

ネットワーク記者 の感想

私は将来、開発途上国での支援活動に参加した
私 と思っています。それが、今回の記者を希望
した一番の動機でした。今回のインタビューを通して、
自分の中の意識が大きく変わりました。中井さんのお
話を聞いていて、一番ショックだったのは自分の今まで
考えていたことと現実の違いでした。私は今まで、
支援活動に対して理想やあこがればかりで、カッコイ
イ部分しか知らなかったのだということに気づかされま
した。中井さんのお話の中で、「熱き心と冷たい頭」
という話がありました。それを自分のことと考えると、
私には「冷たい頭」がないと思いました。いつも
感情で動いてしまいがちな冷静な判断ができなくなっ

まいます。中井さんのように、時には冷たい頭で通し
ていけるような強い人間になりたいと思いました。これ
から、自分の目標を実現させていく上での大きな課
題が見つかった気がします。時間をかけて少しずつ自
分を変えていくと同時に、夢を追い続ける熱い心だけ
はずっと持ち続けたいと思いました。

西子 紗世 17歳

す ごい体験をしたな、と思っています。ずっと
夢のような、遠い存在にあった「ユニセフ」がな
んだか身近に感じられるようになりました。また、今回
インタビューをさせていただいた中井さんもお話さ
す方、インタビューがとても楽しかったです。

中井さんの本音トークもいくつか飛び出してきたり、本
当にあつというまの2時間でした。

それから、一緒にインタビューをしたみなさんも、とて
も楽しいひとばかりでずっと笑っていたような気がし

ます。「国際協力」ってほんと一体何
だろう。家に帰ってから私はそのこ
とで頭がいっぱいでした。今、自分が
できること、自分にしかできないこと。
って、何があるんだろう。日本だけじゃ
なく、世界のことにしても考えるよ
うになりました。

最後に中井さんをはじめ、関係者の皆
さん、すばらしい体験をありがとうございました。

山瀬 麻里絵 15歳

今 回のインタビューで中井さんからでないと聞くこ
とのできないようなお話を聞くことができると
もよ、経験になりました。インタビュー前までの私は、
日本からの視線のみで開発途上国を見てました。け
れど、お話を通して、現地の目線からの事実がだんだ
ん見えてきたし、その新鮮さと大切さを強く感じまし
た。私は将来的には国際協力の仕事について、南
北問題の解決の助けになりたいと考えています。これ
から、たくさんの方を学んで、広い視野で問題を解
決へ導いていける力を身につけたいです。その時に、今
感じたことや学んだことを大切に、そして生かしてい
きたいと思っています。また、今回全国各地から集ま
ったネットワーク記者と意見を交換しあうことで私自
身、いい刺激をうけました。「世界の子ども達のため
に一緒に立ち上がろう！」と強い意志を持つ仲間が
いることが分かり、これからはそんな仲間と一緒に活
動していくんだ、と心に誓いました。

田中 和子 17歳

インタビューを通して私はあらためて『世界が抱
えている問題は 私たちのこれからの課題』だ
と思いました。「ソマリア」という国はあまり日本の私
たちには知られていない国だけど、紛争問題・男女差
別などまだまだたくさん問題を抱えている国。でも、
そういうソマリアの中で起こっている問題は「ソマリア
の問題」ではなく、地球市民である私たちのこれか
らの課題だということの中井さんのインタビューを通し
て心の中で感じました。中井さんはソマリアのような

国でユニセフが活動するということは日本の人々たちの
橋渡しをしているということだとおっしゃっていました。
私も早く自分の夢である日本の人々たちの橋渡しので
きる、世界の貧しい国の子どもの力になれるような
仕事につきたいと思います。今回、中井さんはもちろ
ん、同じユニセフ子どもネットワークのみんなとも自
分たちが、今、思っていることをたくさん話し合えた
のでとても私にとってプラスになりました。これから、
私たち地球の子どもみんなが「これらの私たちの課
題」をみつけていけたらいいです。

中佐 友衣 15歳

今 回中井さんにインタビューさせていただいたこと
に感謝します。インタビューして特に印象
に残ったのは、ソマリアなどの現地で働くには「熱
き心と冷たい頭が必要だ」という言葉です。実際、
中井さんは現地のようすや仕事の内容などをドライに
話していて少し驚きましたが、それが現実なんだと
改めて認識させられました。

また、ソマリアの問題を考えると、例えば女性器切
除の問題にしても、ソマリアの問題にしても、ひとつ
の方向から判断するのは危険だと思いました。良い悪
いの問題でないことが多いと思うし、それぞれの立場
があり、そこに歴史やいろいろな欲望が絡まりあっ
ていることが多いです。だからこういった問題は解決
することが難しいのだと思います。だからよりいっそ
う教育が必要だと思いました。

漆原 直美 17歳

左から 西子さん、田中さん、中井さん
漆原さん、山瀬さん、中佐さん

REPORT & INFORMATION

報告とお知らせ

お問い合わせ・もうしこみは

ユニセフ子どもネット事務局

(日本ユニセフ協会 広報室内)

住所: 〒108-8607
東京都港区高輪4-6-12

でんわ: 03-5789-2016

ファックス: 03-5789-2036

電子メール: jcuinfo@unicef.or.jp



お知らせ Information

募集 「子どもの人身売買」キャンペーン

子どもによる活動を企画してみませんか?

計画に参加してくれる「子ども活動プランナー」と活動についての意見を大募集!
来年から日本ユニセフ協会では、子どもの人身売買をなくすための活動をすすめていくことになりました。まずは、来年2月にイベントを開く予定です。

キャンペーンにあたって、ぜひ子どもたちもこの問題に関わってほしいと考えています。この問題に関心があり、もっと知りたい、もっと知らせたい、子どもの立場からこの問題の解決に関わってみたいと考えているネットワークワーカーに、子どもによる活動を企画してもらえたらいいな思っているのです。(人身売買については、2~3ページの記事を読んでみてください)

そこで、この活動を計画するメンバーを「子ども活動プランナー」として最大10人募集します。ふだんは主に電子メールで意見交換したり計画をつくりたりして、イベントの時などに集まって、考えた計画を実行してもらおうと考えています。活動期間は、来年の夏休みまでを一区切りとします。

どしどし応募してください

条件: できるだけ電子メールでのやりとりができる人。
この問題に対して積極的な活動ができる人。

応募の方法: 次のことを書いて、電子メールで送ってください

(jcuinfo@unicef.or.jp)

- 1) ネットワーカー番号、2) なまえ、3) 学年(年齢) 4) 住所・電話などの連絡先
 - 5) このキャンペーンでどんなことをしたいか
- しめきり: 12月25日(水)



©日本ユニセフ協会/Nozawa

また、プランナーに応募はしないけれど、子どもの立場から人身売買にどのように取り組んだらいいか意見を言いたいという人も、どんどん意見を送ってください。(メールでもファックスでも郵便でもOK) 場合によっては、いっしょにメールなどで話し合いに参加してもらおうことができるかもしれません。

ユニセフ募金活動

ハンド・イン・ハンド実施中

毎年12月はハンド・イン・ハンド(手に手をとってという意味)月間です。毎年、日本全国でボランティアが参加する募金活動がおこなわれています。今年のテーマ「命を守る一滴 予防接種を世界の子どもに」を合言葉に、街角や学校などで募金を呼びかけます。実際に参加したい人は、近くで活動している団体をさがして一緒に参加したり、学校などで仲間をつかって参加申し込みをしたりすることもできます。(申し込みはお早めに)



©日本ユニセフ協会/Nozawa

12月23日(祝)の午後には、東京の恵比寿ガーデンプレイスで中央大会が開かれます。日本ユニセフ協会大使のアグネス・チャンさんや、スポーツ選手などたくさんのお名前も協力してくれる予定です。

新しい資料のご紹介

みんなに伝えたいこの想い
~第2回 子どもの商業的性的搾取に反対する世界会議 子ども&若者プログラム~ 20分

ユニセフ子どもネットニュースでも何度かとりあげていますが、昨年12月に横浜で開かれたこの世界会議で、子どもや若者たちがどのように活動したかをえがくドキュメンタリービデオです。



©日本ユニセフ協会/Nozawa

世界子供白書2002 リーダーシップ 10分
国連子ども特別総会が開かれた今年の世界子供白書は、世界の子どもたちが健康に幸せに暮らせる世界をつくるために、政府やさまざまなレベルのリーダーシップを求めました。国連子ども特別総会に向けて世界各地でくりひろげられた活動のようすなどを報告しています。



©UNICEF/Stacy Sullivan

ユニセフと世界の子どもたち
世界162の国と地域で活動するユニセフの活動や世界の子どもたちのようすを、映像と説明で見ることができます。(ビデオ「ユニセフと地球のともだち」をベースにしています)

*ビデオとCD-ROMを貸し出しています。借りたい人はユニセフ子どもネット事務局まで申し込んでください。(返却のときの郵送料だけ負担してください)

こんなことをやりました!

関西学習会の報告

日時: 11月3日(祝) 10:30 ~ 16:00
会場: 生活共同組合コープこうべ 生活文化センター5階

午前

1. 自己紹介
2. ユニセフとは??!
「世界子供白書2001」と去年の横浜会議のビデオを見て、世界の子どもの現状(これからの課題など)を学びました。
3. これからの活動
これからやっていきたいことを話し合いました。右のようなアイデアが出ました。

全国の各地域の学習会が分担して1ヶ国ずつ、いろんな切り口から調べる。全部が集まれば世界中のことが分かるようになるという壮大な計画です。
ハンド・イン・ハンドに参加してみる。
今までに出た宣言文や条約を自分たちの言葉になおす。公式文書のむずかしい言葉をわかりやすく、できれば関西弁に直そう!
各学校の文化祭でユニセフに関する展示をする。
来年からのキャンペーン「子どもの人身売買」に関わる。関西で開かれる、「世界水フォーラム(2003)」に関わる。エイズの世界会議に関わる。

今回は と について話し合うことにしました。

ハンド・イン・ハンド

関西の子どもネットワークと、その友だちを誘ってハンド・イン・ハンドに参加することにしました! 駅、警察などに許可を取る人、ユニセフ協会と連絡を取る人など、役割を決めました。場所は人数と許可がとれるかどうかで決めます。最終打ち合わせと、それぞれが誘ってきた友だちの顔合わせを、12月28日(土)にすることにしました。

午後

子どもの人身売買キャンペーンについて

春から計画されている署名活動などに参加しよう

- ・署名は、ちゃんと内容を知ってからじゃないと募金のように気軽にはできない。
⇒街頭では無理 ⇒個人で各学校などでやる ⇒まず私たちが知らなきゃ何もできない!! ⇒人身売買について調べよう ⇒どうやって調べる??
- ・地域を東南アジアに限定する。
- ・署名活動が始まる頃に、一般の人に知ってもらえるようにワークショップを開くことを目標にする。⇒参加してくれた人が身の回りで署名を集めてくれるように...
- ・毎月一回の割合で集まって、調べてきたことを共有する。
人身売買について調べていると必ず子どもの商業的性的搾取の問題にもぶつかるので、そこからエイズのことも発展させられるはず...

こんな感じで少人数だけど、楽しく有意義な話し合いができたと思います。人数を増やすことが次からの目標なので、ハンド・イン・ハンドでは友だちをいっぱい誘って、人身売買の学習会では18歳以上の元ネットワークワーカーや、横浜会議(と川崎セミナー)に参加していた大中学生も巻き込もうかなあと考えています。
報告者: 若島 史(16歳)

Letter

アメリカ在住のユニセフ子どもネットワーク 田代準之介君からのおたより

お久しぶりです。今年の6月にアメリカ・カリフォルニア州に引っ越した、ユニセフ子どもネットワークの田代準之介(13歳)です。
ぼくと兄の竜太郎(15歳)は、現在、近所のUnited Nations Store(国連ギフトショップ)で、週一度、ボランティアをしています。ボランティアの内容はさまざまで、接客、レジ打ち、値札はりから、そうじ、商品の注文など、何でもやります。そこはサン・フランシスコのサン・ノゼ地域で唯一の国連ギフトショップで、国連国内委員会支部の事務所としての役割もかかっています。店は自宅から車で15分くらいの町の中心部(ダウンタウン)にあります。店内はかなりせまく、しかも商品が所せましと並んでいるので余計に狭く感じられます。最近、クリスマス商品の入れ替えなどがおこなわれており、事務に使っている机さえ商品のディスプレイに、使われています。話による

と、クリスマスの時は息をつくひまがないほど忙しらしく、12月にはいる前に、準備しておかないといけないそうです。最近あまりお客さんが多くないのですが、時にはお客さんと話をして個人的なつながりを作ったりすることもあり、とても楽しいです!

10月31日はハロウィンで、ぼくはユニセフが実施している"Trick-or-Treat for UNICEF"という募金活動をしました。通常のハロウィンは、子どもたちが"Trick or Treat(いたずらされた!? それともおかしをくれる?)と行って近所の家庭を訪問し、おかしをねだるのですが、この募金活動の場合は、"Trick-or-Treat for UNICEF, please(いたずら? それともユニセフ募金を?)と行って、募金をしてもらいものです。ぼくは20分くらい歩きまわって、17ドル(およそ2000円)くらい集めました。

2002年11月11日 田代準之介君のメールより抜粋